

▲能取岬の氷瀑群

網走市街より15分の近郊、能取岬の東海岸にアイスクライミングの楽しめる氷瀑が9つ懸かっている。シーズンは1月初旬から3月初旬までで、3月中旬には毎年不可となる。アプローチは、能取岬入り口の1km手前、英輝キャンプ場入り口に車を置き、除雪されていない道を徒歩かスキーでキャンプ場に向かい、キャンプ場南の小川を渡り、夏道沿いに海岸に降りる。ここより南300mの間に3本、北の岬に向かって1.4kmの間に6本の氷瀑が懸かっている。どの滝も上部には良い支点となる立ち木がある。F1(オコジョの滝)以外は氷の発達も良く、アイスクリューが良く効くが、氷は硬く割れやすい。2月初旬に海が流氷に覆われるまでは、F7(オジロの滝)付近は満潮時に下部が波に洗われ、通過が困難になるので注意のこと。



F1(オコジョの滝) 40m 氷瀑

下部の6m(80度)を登り、10mの緩斜面を歩く。次の12mはカリフラワー状の水で、確実な支点が取れないので気を付ける。カリフラワー状の水にスリングをまわして支点を取ることできる。ここが終わると右岸壁にレストポイントがある。最後の12m(90度)は細いつららの集合体だが下部よりはアイスハーケンが効く。この滝の水の状態が他の滝より比較にならないほど悪い。

F2(メノコ) 30m 氷瀑

傾斜は70~80度で、上部が少し垂直となっている。出口は氷が無く、急な雪面を登る。

F3(オノコ) 35m 氷瀑

下部20mは80度。上部15mはチムニ状の奥に落ちるツララ状の水を登る。

F4(クジラの滝) 40m 氷瀑

キャンプ場から海岸への降り口の小川から落ちる滝に懸かる氷瀑で、とても高感がある。落ち口から懸垂下降しており、下部10mはカリフラワー状のこぼこで、次の10mはつららの集合体(85度)。次の12mは垂直、一段あって最後の8mは直径2mの垂直な氷柱で、それを登ると落口である。1997年くらしが打ち上げられ、滝の目印となったのでこの名前となった。

F5(トッカリの滝) 20m 氷瀑

海岸岩壁中間までは雪面を登り取り付く。70度程度で、上部を横切る木をくぐると傾斜はさらに緩くなる。上り切ったキャンプ場のフェンスに出る。

F6(3本柱の滝) 15m 氷瀑

海岸から雪面を登り、氷を10m程登り、滝の基部からのびる小尾根の立木にビレイを取る。3本の太い氷柱が垂直に懸かり、氷柱の裏側は空洞となっていて通り抜け出来る。シーズン途中から右側2本は発達して一体となる。



F1(オコジョの滝)



F4(クジラの滝)

F7 (オジロの滝) 40m 水瀑

幅約15mあり、人数が多いときは3本平行して登ることもできる。キャンプ場下の海岸から北に見える岬状の岸壁の裏側にある。上昇気流を求めるオジロワシがこの滝の上部を舞うのをよく見ることが出来る。滝は下から13m(85度)、5m(90度)、2m(70度)、14m(85~90度)、最後は60度の水雪壁を6m登って終了である。最下部は流水のない満潮時には波に洗われるので注意すること。



F7 (オジロの滝) 上空をオジロワシが飛ぶ

F8 (オオワシの滝) 35m 水瀑

落口は幅2m程だがシーズン後半には左側に幅10m高さ15mの垂壁が出来る。

ルートは下から15m(85度)、5m(70度)、15m(75度)である。

F9 (ハヤブサの滝) 20m 水瀑

下部80度のでこはこを6m登ると、上部14mのすっきりした垂直を楽しめる。幅6m程の垂壁が落ち口まで伸び、長方形のきれいな滝となっている。これより北に滝はない。



F9 (ハヤブサの滝)